# 埼玉県内古墳出土の勾玉について（Ⅰ）

中　山　浩　彦

## 1　はじめに

さきたま資料館では近年の公立小・中学校週５日制の施行に伴い、主に児童・生徒を対象に土曜おもしろ博物館・さきたま風土記の丘教室と題した教育普及事業を行っている。土曜おもしろ博物館の考古学に関した活動には、古墳探検ワークシート、実感！古墳探検オリエンテーリングなどがあり、年５回程実施されている。さきたま古墳群と館内の展示資料を題材にしたクイズ形式をとっており、古墳時代について楽しみながら学習出来るような催しを行ってきている。さきたま風土記の丘教室においては、夏期休暇中に親子で参加できる「はにわを作ろう」、「まが玉を作ろう」と題した体験学習を行っている。「まが玉をつくろう」では、勾玉についての簡単な講義（学習）を行った後、滑石を使用した製作を行っている。今年度の風土記の丘教室において資料作成、講義を行った際に勾玉に関して何点かの疑問が生じたことから、今回本稿を執筆しようと思った次第である。

## 2　古墳出土の勾玉

勾玉が出土している古墳は、第１図に示した通りである。勾玉などの古墳出土の副葬品類については、盗掘や開墾などによって発見された例が多数認められ、その出土した特定の古墳名、出土状況等が不明瞭なケースが多いため、それらの勾玉の資料については今回の論考の対象からは除いている。今回対象とした勾玉の資料は、発掘調査に伴い出土したもので、且つ出土状況によって勾玉の埋葬方法・位置がある程度復原可能なものを選んだ。勾玉が伴う副葬品類の出土状況が明確な古墳は８例で、詳細を以下に述べる。

A　川口市宮脇２号古墳跡（第２図１）

古墳の形態・規模は不明であるが、周溝の一部と埋葬施設が検出されている。埋葬施設は木棺跡で、規模は2.3×0.7×0.1mを測る。本古墳跡の東方約150mには、前期古墳として著名な前方後円墳の高稲荷古墳が同一独立丘陵上に存在していた。高稲荷古墳出土と伝えられるメノウ製の勾玉が２点確認されているが、材質・形態などから周辺の古墳から出土したものと考えられている。

勾玉はメノウ製のものが１点出土している。長さ3.8×幅2.3×厚さ1.2cmを測る。形態は「コ」字形を呈し、断面は方形に近い。穿孔方法は片面穿孔である。

その他の副葬品としては、直刀６、刀子１、鉄鏃２の武器・工具類が出土しているが、勾玉以外の装身具類は出土していない。時期は、６世紀末葉から７世紀前半と考えられている。

B　大宮市植水１号墳（第２図２～９）

周溝のごく一部と埋葬施設が検出されたのみで、古墳の形態・規模は不明である。埋葬施設は、凝灰質砂岩の切石積みにより構築された胴張りの横穴式石室である。

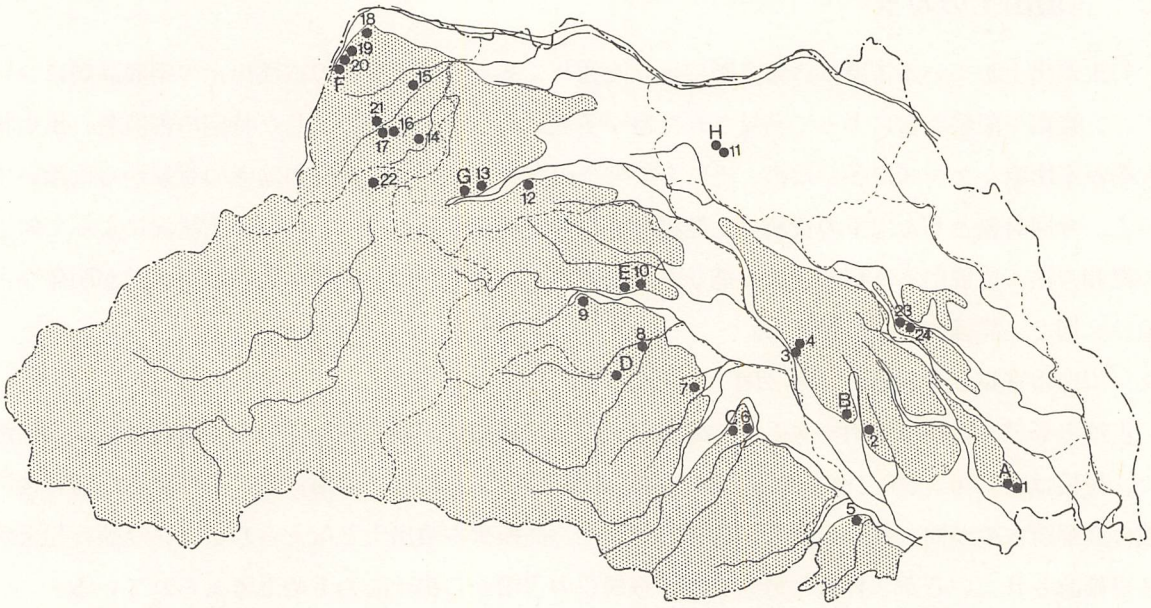
勾玉８点が丸玉・小玉・漆玉とともに玄室棺床面から一箇所にまとまって出土しており、同一の

頸飾りであった可能性が高い。８点全てがメノウ製のものである。２～４は、「コ」字形を呈する。２は、3.7×2.3×1.2cmで、左側からの片面穿孔である。３は、3.5×2.3×0.9cmで、左側からの片面穿孔である。４は、2.8×1.8×0.8cmで、右側からの片面穿孔である。孔の直下には、径0.1cm、深さ0.2cmの未貫通孔が認められる。５～９は「C」字形を呈し、大形のもの（５～７）と小形のもの（８・９）がある。５は、3.9×2.6×1.6cmで、左側からの片面穿孔である。６は、3.6×2.2×1.2cmで、両面穿孔である。７は、3.2×2.0×1.0cmで、右側からの片面穿孔である。８は、（2.2）×（1.3）×0.8cmで、右側からの片面穿孔である。９は、（1.8）×（1.0）×0.7cmで、右側からの片面穿孔である。

その他の副葬品として、鉄環１、刀子１、鉄鏃13、琥珀製平玉１、ガラス製丸玉（臼玉）13、ガラス製小玉27、土製漆玉22、碧玉製管玉２、半球状土製品１が出土している。装身具類は玄室部奥壁寄りの棺床面、武器類は玄門から羨道部にかけての床面上からの出土である。人骨は検出されていないが、副葬品の数量などから被葬者は複数と考えられる。時期は、７世紀前半の中頃と考えられている。

C　川越市山王塚西古墳（第２図10～17）

径30mの円墳で、上円下方墳である山王塚古墳を含む南大塚古墳群中に位置する。埋葬施設は横穴式石室であるが、開墾により大部分が削平されており石室の遺存状態は悪い。




A　川口市宮脇２号古墳跡、B　大宮市植水１号墳、C　川越市山王塚西古墳、D　毛呂山町吹上古墳、E　東松山市冑塚古墳、F　神川町青柳古墳群城戸野支群、G　寄居町小前田古墳群、H　行田市稲荷山古墳

1　川口市高稲荷古墳、２浦和市白鍬宮腰２号円形周溝墓、3　桶川市樋詰２号墳、4　桶川市熊野神社古墳、5　朝霞市一夜塚古墳、6　川越市多宝塔古墳、7　川越市下小坂４号墳、8　坂戸市北峰７号墳、9　嵐山町行司免１号墳、10　東松山市附川１号墳、11　行田市将軍山古墳、12　川本町箱崎１号墳、13　花園町黒田古墳群、14　美里町長坂聖天塚古墳、15　美里町塚本山古墳群、16　児玉町秋山諏訪山古墳、17　児玉町秋山庚申塚古墳、18　上里町帯刀古墳群、19　神川町　137古墳、20　神川町青柳古墳群海老ヶ久保支群、21　児玉町長沖３号墳、22　皆野町上の平古墳、23　蓮田市十三塚１号墳、24　蓮田市ささら１号墳

**第１図　勾玉出土古墳位置図**

勾玉はメノウ製６（10～15）、水晶製２（16・17）の計８点が出土している。10は4.0×1.5×1.3cm、11は3.9×1.4×1.0cm、12は3.3×1.2×0.9cm、13は2.7×1.0×0.9cm、14は2.9×1.1×1.0cm、15は2.7×0.9×1.0cm、16は2.9×1.2×0.9cm、17は2.2×0.8×0.6cmで、全て片面穿孔である。形態は、15がやや「コ」字状に近い形態をしているが、残りの７点は「C」字形を呈する。

その他の玄室内の副葬品として、直刀２、刀子１、把頭１、鐺１、鉄鍔１、把１、鉄鏃22、縁金具１、用途不明鉄製品１、足金具１、鉈１、鍬（鋤）刃先１、鉄釘、金銅環14、ガラス製臼玉14、土製臼玉１、水晶製切子玉２、ガラス製小玉３、漆塗り木製ねり玉１、凝灰岩製丸玉５が出土している。金銅環の数量などから数回の追葬が想定されることから、出土遺物の多くは原位置を保っているものが少ない。時期は、６世紀末から７世紀初頭と考えられている。

D　毛呂山町吹上古墳（第２図18）

径14.5m、高さ約２mの円墳で、埋葬施設は胴張りの横穴式石室である。

勾玉は玄室奥壁寄りから石製小玉とともに１点が出土しており、材質は玉髄の一種と考えられている。1.6×1.6×1.2cmの非常に小形の勾玉である。形態は「C」字形を呈し、断面はほぼ円形に近い。穿孔方法は両面穿孔である。

その他の玄室からの副葬品として、鉄鏃11、刀子４、鉄片３、耳環３、石製小玉78が出土している。石製小玉は、勾玉と一本の頸飾りを成していた可能性が高い。副葬品の数量などから被葬者は複数と推定される。時期は、６世紀中葉から７世紀初頭と考えられている。

E　東松山市胄塚古墳（第２図19～27）

径37m、高さ５mの二段築成を有する円墳で、下唐子古墳群中の一古墳である。埋葬施設は、胴張りの両袖型横穴式石室である。石室は、前室と奥室の二室からなる。

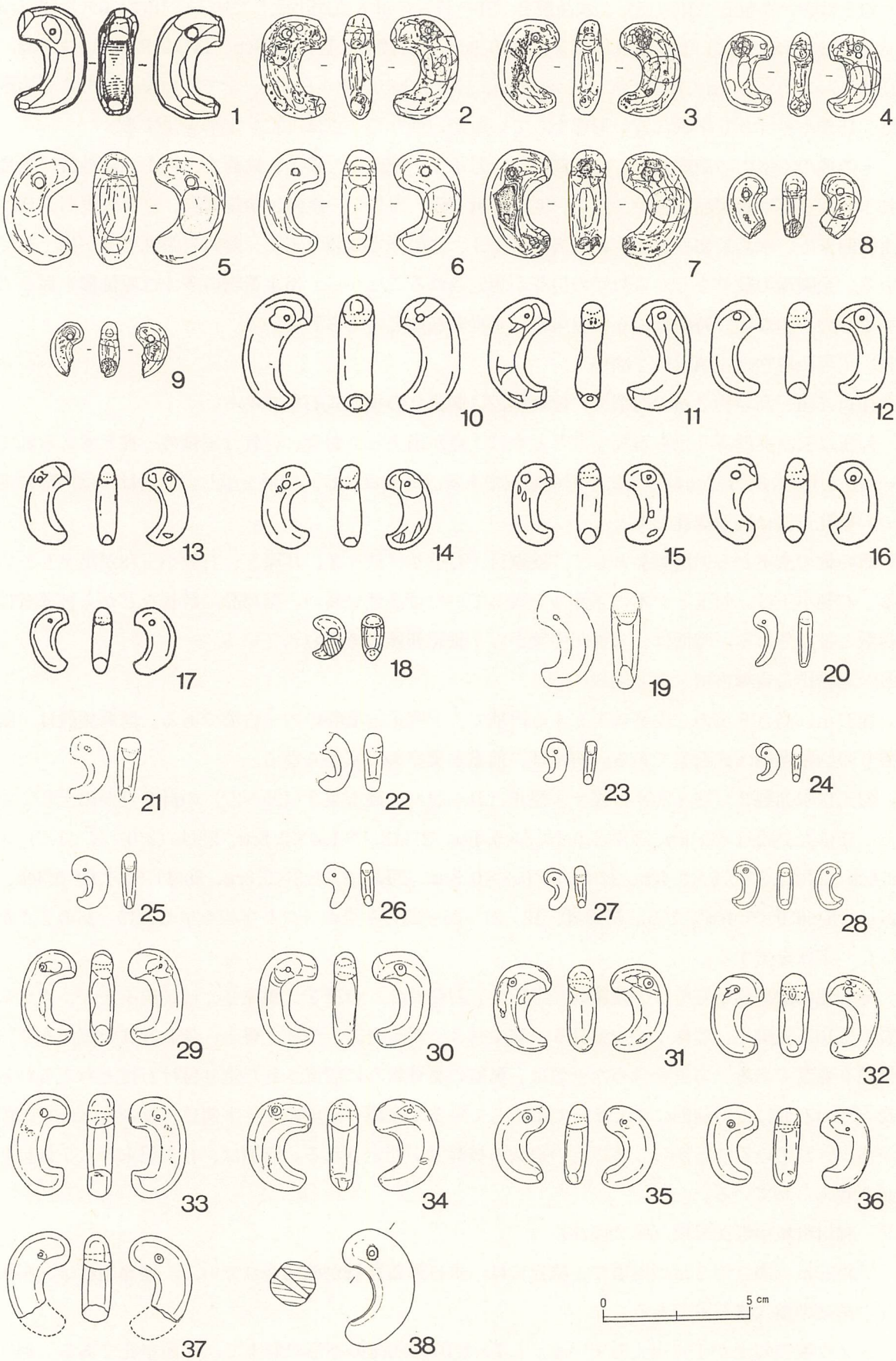
勾玉は水晶製２（19・20）、ガラス製４（21～24）、硬玉製３（25～27）の計９点が出土している。19は3.3×2.1×0.9cm、20は2.0×0.8×0.4cm、21は2.1×1.4×0.8cm、22は（2.0）×（1.2）×0.6cm、23は1.3×0.9×0.4cm、24は1.3×0.8×0.3cm、25は1.8×1.3×0.8cm、26は1.5×1.0×0.4cm、27は1.5×0.9×0.4cmである。形態は、12・21～25・27の７点が「コ」字状を呈し、13・26の２点が「C」字状を呈する。

その他の副葬品としては、鉄鏃48、刀子２、刀装具２、金環２、銀環２、琥珀製小玉３、ガラス製小玉10、杏葉１、雲珠１、辻金具５、鞍金具３、鋲金具50、鞍３、轡１、帯金具９などがあり、種類も豊富である。勾玉を含めた玉類は、奥室の奥壁寄りに設置された造り付け石棺と考えられる長方形の石囲に近い範囲にまとまって出土している。金環・銀環のセット関係、及び前室から臼歯が検出されていることから３体以上の複数の被葬者が想定される。時期は、６世紀末から７世紀初頭と考えられている。

F　神川町城戸野30号墳（第２図28）

径約20m、高さ約２mの円墳で、墳丘には二重に巡る葺石が確認されている。埋葬施設は、胴張りの両袖型横穴式石室である。

メノウ製の勾玉が１点出土している。1.7×1.0×0.6cmの小形の勾玉で、片面穿孔である。形態は、「C」字形を呈する。




第２図　古墳出土の勾玉　(1)

その他の副葬品として、鉄鏃33、両頭金具３、刀装具３、刀子５、碧玉製管玉４、ガラス製小玉29、耳環10があり、玄室南半には人骨が検出されている。勾玉、管玉、小玉の装身具類は、玄室北半にまとまって出土しており、一本の頸飾りであった可能性が高い。時期は、６世紀後半と考えられている。

Ｇ　寄居町小前田18号墳（第２図29～37）

墳丘は全て削平されており、周堀も確認されなかったため規模・形態は不明である。埋葬施設は、河原石積み胴張りの横穴式石室である。

勾玉は９点出土していて全てがメノウ製である。29は、3.2×1.8×0.8cm、30は3.2×2.1×0.8cm、31は3.0×2.0×1.0cm、32は2.8×1.9×1.1cm、33は3.5×2.1×0.9cm、34は3.2×2.2×1.1cm、35は2.8×1.8×0.8cm、36は2.7×1.7×0.9cm、37は（2.9）×（2.2）×1.0cmである。32の孔上部には未貫通孔の浅い窪みが認められる。穿孔方法は全て片面からの穿孔である。形態は、29・30・32・33・34・36が明瞭な「コ」字形を呈するが、31・35は若干丸みを帯びている。37は尾部が欠損しているが、上部の形態から「コ」字形を呈するものと思われる。

その他の副葬品としては、鉄刀２、鉄鏃８、弓金具３、刀装具３、鐔１、刀子１、耳環２、滑石製丸玉３、ガラス製丸玉７、ガラス製小玉28が出土している。勾玉を含む玉類は、奥壁東寄りの範囲にまとまって出土している。時期は、７世紀前半頃と考えられている。

Ｈ　行田市稲荷山古墳（第２図38）

長さ約120m、後円部の高さ11.7mの、周堀が長方形に二重に巡る前方後円墳である。前方部は土取りのため残存していない。さきたま古墳群中では最初に築造された古墳である。埋葬施設は、後円部頂から礫槨と粘土槨の２つの主体部が検出されている。粘土槨は盗掘のため遺存状態が悪く、副葬品も剣、鉄鏃、挂甲などの残片が僅かに出土したのみである。

第１主体部といわれる礫槨から硬玉（ヒスイ）製の勾玉が１点出土している。大きさは4.0×2.5×1.6cmで、断面は円形である。形態は古墳出土の勾玉では古相といわれる「Ｃ」字形を呈し、穿孔方法は片面穿孔である。

他の副葬品として、環状乳画文帯神獣鏡１、辛亥銘鉄剣、剣１、直刀５、刀子２、鉾２、石突、鉄鏃120、挂甲１、銀環２、帯金具、轡１、三環鈴１、鈴杏葉３、素環雲珠１、素環辻金具３、方形辻金具３、壺鐙１、鞍橋金具１、鞍２、鉸具６、鉄鉗２、鉈１、鉄斧２、鑷子１、砥石１が出土している。装身具、武器・武具、馬具類などの多種多様の副葬品が出土しているが、勾玉以外の玉類は出土していない。時期は、５世紀後半と考えられている。

**【引用・参考文献】**

小川順一郎　1985　『天神山・宮脇遺跡』川口市遺跡調査会報告第６集　川口市遺跡調査会

金井塚良一・小峯啓太郎　1964　『冑塚古墳』東松山市文化財調査報告第３集　東松山市教育委員会

小泉功　1997　『山王塚脇遺跡』川越市遺跡調査会報告書第20集　川越市教育委員会・川越市遺

跡調査会
埼玉県教育委員会　1980　『埼玉稲荷山古墳』
城西大学学術調査室　1987　『吹上』城西大学入間地区学術調査報告第１輯　城西大学
瀧瀬芳之　1986　『小前田古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第58集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
立木新一郎・田代治・諸墨知義　1985　『原遺跡』大宮市遺跡調査会報告第12集　大宮市遺跡調査会
田村誠・金子彰男　1997　『青柳古墳群　城戸野・海老ヶ久保・十二ヶ谷戸・二ノ宮支群』神川町教育委員会文化財調査報告第16集　神川町教育委員会